

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、みやびとしての姿勢や行動指針などを運営者・管理者・リーダーと共に新たに作成した。 <u>法人理念</u> 安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します。	○  <u>法人理念に基づいたユニット個別理念</u> 私たちは家族のように何でも話し合え楽しみ、笑い、安らぎのある居場所を作ります。そして、諦めないでどんな事にも挑戦しみんながひとりひとり役割をもてるよう傍に寄り添い手助けをします。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や全体会議、朝礼で確認。玄関やユニットのエレベーターの前に掲示している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のかたとの交流につながるような新たな理念を構築し、家族会でも紹介した。	○  <u>みやびの姿勢 地域の「笑顔」</u> 私たちは、地域において信頼度ナンバーワンを目指し、地域社会に不可欠な存在になるように努めますを作成し掲げている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	川べりの散歩の際は挨拶して交流し植えられている花などを頂いて帰ることがある。事業所でバザーや夏祭りなどを開催し、地域の方へ還元したり相談窓口などを開催し交流を図っている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での神社祭りや夏祭りに声かけして頂き参加して、徐々にではあるが交流の場を広げている。	○  今後地域近隣の公園等の清掃活動をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	今後、勉強会やミーティング等で理解を深めるよう努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	今後、家族会に介護相談員の介入を依頼していきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最低限度に抑えるように努めている。この一年での異動はない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会や市、グループホーム協議会の外部研修や内部研修とともに参加できる機会を設けている。研修後に報告書の提出をしている。○JT委員を設置し、職員の資質向上に努め計画立てて取り組んでいる。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市のグループホーム部会に参加し連携作りに努めている。月1回他市を含むグループホーム計画作成者の集いを呼び掛けている交流を進めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニットでの懇親会や全体での親睦会などの機会を持っている。管理者として、職員の勤務後の時間にコミュニケーションをとり、勤務の状況・身体的・精神的・家族プライバシーのストレスを把握しストレス発散やバーンアウトしないよう声かけしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得にむけて、勤務の調整を行ったり、研修の受講をしている。年度末に個々で自己評価し、リーダーと管理者とスタッフで面談を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居するにいたって、利用者に納得して頂けるように家族様に説明し、できる限り本人の同意を得るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネより情報を確認したりしている。自宅へ訪問したり、来所して頂いたりしている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じ支援のサービスあるいは、空き情報などの提供、グループホームの紹介などを行っている。紹介先に入居された場合、家族様よりその旨の情報を頂いている。2～3か月毎に待機の方へは、状況確認の連絡を入れたりしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し体験入居や短期利用など使いながら徐々に馴染めるようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には、できる事はしてもらっている中で職員が教わったり、助けられたりしている。逆に職員が利用者にあたわってもらったりする事もある。 また普段の生活の中で雑談を大事にし喜怒哀楽を共有するように心がけている。	○  自立度の高い利用者とは支えあう関係が築けているが一部の利用者で自立度の低い利用者には介護する立場で接している事が多々あるため改善が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来苑時に一部の職員より日々の様子や出来事などの話をしている。また状況の変化がある都度家族に連絡し相談している。	○	全ての職員が家族と気軽に話をする雰囲気がないため今後の課題としている。来苑の殆どない家族とはコミュニケーションが不足しているため今後は家族宅訪問なども検討していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な面会が図れるような取り組み（家族会、法人全体行事、ユニットの行事等）を行い家族への参加の呼びかけを行なっている。	○	職員の送迎で帰宅支援もしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の望みがあれば以前の住まいを訪れたり、馴染みの人に会えるよう個別に対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアでみんなで過ごせるような働きかけ（家事、レクリエーション、行事など）を考え実行している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居に至った関連施設の訪問や担当ケアマネと家族訪問、退居者への手紙の送付などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○ 普段の雑談の中から本人の望みを聞きだしノートに記録するようにしている。また意思疎通困難な場合は本人の反応により判断したり、家族に確認し検討している。	○ その人のしたい事や行きたい所をノートに記録しているが記録量が不足して活用できていないため検討が必要。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ 入居時に生活歴シートを家族に記入してもらっている。入居後は家族来苑時に不足情報などを積極的に聞き取りを行なっている、また本人にも普段の雑談の中から情報を得ている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○ 朝・夕の申し送りや申し送りノートを活用し把握に努めている。定期的、または必要時にケア・カンファレンスを開催し一人ひとりのアセスメントを行なっている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○ 利用者との日頃の会話の中から本人の要望、希望を引き出し計画書に反映させていく事が必要。毎月モニタリング・カンファレンスを開催し職員の意見をもとに介護計画を作成している。	○ 利用者との日頃の会話の中から本人の要望、希望を引き出し計画書に反映させていく事が必要。また、利用者の発言だけをうのみにするのではなくその言葉の裏側、本意を考える事も重要。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○ 3ヶ月に一度または状態の変化に伴いその都度、見直しを行なっている。	○ 毎月のモニタリング時に目標の設定変更や援助内容の検討を行なっているが計画書変更は実状とは異なり時間的なズレが生じているため今後はズレの解消に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録と介護計画との関連づけをすすめるための工夫をしている。	○	介護計画を参照しながら経過記録を記入できるような書式を作成し現在取り組んでいる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスでのイベントや法人全体での行事に参加してもらえるようにしている。またグループホーム内での（他ユニットとの）交流を促進している。	○	グループホーム内で自由にどこのユニットにも行き来でき食事やおやつと一緒に摂れるような取り組みをすすめている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	舞踊や定期的なボランティア、個人的に来ていただける方などがある。地域のイベントなどへの参加などで連絡支援いただくこともある。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所と月1回計画者作成会議を実施しており情報を共有し他のサービスを利用するための支援をしている。	○	他のグループホームや地域の保育園などへの訪問を月に数回行なっている。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談のケースの見学などを受けている。実際利用につながったケースはない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じた受診を推奨している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と関係を築いている。利用者と受診し診断や治療を受けたり職員が日々の様子を話し対応について相談できる体制にある。	○	主治医以外にも家族介護者教室にて講演頂いた医師にも相談等したりしている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者や同事業所の看護師、往診クリニックの看護師との連絡相談等している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者・スタッフが面会に行き、あるいは電話などで家族や主治医・病院の相談員を通じ、情報収集し早期に退院できるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族を交え主治医やスタッフで方針を検討し話し合いを行っている。医療連携体制指針を各ユニットに配備している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向や要望を早期に把握するように日頃より情報の収集に努め、また対応できないことでの説明も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	短期間の入院による移り変わりはあったが、長期はこの一年対象者がいない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、個人情報保護の勉強会は開催し職員への周知に努めているがプライバシーの確保の徹底されているとはいえない、日常の中で職員の声掛けや申し送りなどプライバシーを損ねる発言や対応が見られる。	○	○J Tに組み込み今後、徹底するように努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の雑談の中から本人の望みを聞きだしている。またわかる力に応じこちらから提示して選んでもらえるようにしている。	○	希望を言う事のできない方には二者択一や三者択一での選択を促している。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアの全体行事、グループ行事など他者との調整が必要なものはある程度、企画を優先しているが参加するかしないかは利用者の意思を尊重している。	○	その人のQOL向上が見込めるものについては無理強いしないように参加を促している。その際、動機付けの言葉かけを重要視している。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問理容利用しているが希望のある方には個別に本人の望む店に行けるように対応している。	○	現在希望によりひとりだけ地域の美容室に出掛けている。他の利用者は訪問理容を利用している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	メニューを決める事ができる人が少ない為二者択一、三者択一での選択をしてもらっている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	利用者の経済的負担も考慮して必要のないものは使用しないよう取り組んでいる。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	夜勤帯での入浴の希望があるときは夏場のみシャワー浴をしてもらっている。今後夜間浴ができる工夫が必要。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	無理に入床してもらう事は極力避け日中の活動量を増やしての入眠につなげるように努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	役割の明確化やみんなの感謝の気持ちを感謝状を渡し表している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる能力のある人には小遣いを持ってもらっている。また、管理困難な人にはユニットで管理し買物、外出時に希望があれば渡しているか本人に代わって職員が購入している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット全体やグループ外出は企画に沿って行っている。散歩や買物などはその日の希望に副って出かけられるようにしている。遠方への急な外出もできるだけ希望に副うよう努めている。	○	人員配置上、急な外出の希望に対応できない時があるため副えるような工夫が必要。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月一人ひとりの希望に副った外出（個別外出）を行なっている。 年に一回ユニットでの旅行を実施している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	法人1Fに公衆電話を設置しいつでも自由に利用できるようにしている。手紙もいつでも出せるようにしている。また緊急な場合などはユニットから電話してもらえるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人の来苑を奨励している。また来客時、歓談できるスペースも居室以外にも用意している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解していない。一部の職員のみ理解にとどまっている。	○	今後、勉強会を内部で行なう必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの職員は理解しているが階段の扉は施錠している。	○	エレベーターは通常の操作では開かないようになっているためEVホールの目につく所にエレベーターの扉の開き方の説明文を貼っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守りを意識し安全に配慮するような教育を行なっている。	○	ミーティングなどでチームケアの重要さと声掛けの必要性を話し合い徹底している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は安易に取り除くことなく扉のある所に保管したり施錠したりしている。	○	入居者が必要な時にはすぐに取り出せるような工夫、または自由に使用できるが職員が常に感知できるような工夫を検討している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し配備している。事故報告書、ヒヤリハットを記載し毎月集計、分析、対応策についてカンファレンスを行なって一人ひとりの事故の可能性について協議している。	○	今後リスクマネジメント委員会等を設置し取り組んでいく予定。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による救命講習を受け、ユニットでの勉強会も開き事故対応マニュアルも配備している。	○	今後全職員が対応できるように定期的に訓練、勉強会を行なっていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人、ユニットとも災害時の待避訓練を定期的に行なっているが地域の人々への協力要請、働きかけはできていない。	○	今後地域への働きかけも行なっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	カンファレンス時、抑圧感を取り除くための検討を行い実行している。また自由にしてもらうために生じるリスクについては面会時など家族、本人に説明を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時と入浴前にはバイタル測定を行なっている。また、表情や顔色などに気をつけ異変のある時は日勤リーダーに報告し情報の共有を図っている。	○	職員での判断ができない時は看護師、医師に報告し指示を仰いでいる。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を適宜更新し情報の共有を図っている。与薬方法についてはマニュアル化しダブルチェックを複数回行なっている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量に気をつけ便秘の予防に努めている。便通剤の服用は状態により調節している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの能力に応じ出来ないところは介助している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取困難な人には水分量もチェックし一日の食事量を把握している。また普段より好き嫌いの把握に努め嫌いなもの食べれてない物は別食にしたり刻んだり工夫している。	○	嚥下不良になってきた時にはペーストやトロミ食での対応を行なっている。食事時間も本人に合わせて食べられるようにしている。吸引機を準備し誤嚥や窒息への急変対応も行なっている。それぞれ好きな物を選ぶように月2回程度外食にも行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成、ユニットに配備している。定期的に感染症に関する外部研修に参加し内部研修を行なっている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材、食料品は常に古くならないよう賞味期限を遵守している。調理用具は定期的にハイター消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ユニット入口にはユニット名や入居者の写真、職員の紹介等貼っている。また家庭的な雰囲気を出すために暖簾を掛けている。建物全体にもグループホーム専用の入口を配備している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には外出や行事の写真を掲示している。ベランダ付近の窓にはカーテン、暖簾など遮光の工夫をしている。フロアには季節の花や飾りなどを置いている。	○	食卓にはお茶、お菓子等を常時置くようにしているが利用者により片付けられていることが多い。直接照明部には行灯をかぶせ間接照明にする工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを食卓とソファがあるコーナーとグループで過ごせるサンルームとを用意しておりそれぞれ過ごしたい場所で過ごせるようにしている。	○	今後、廊下部分にも少人数で過ごせる場所を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には手作りの暖簾を掛けている、場所の失見当識がある人には目立ちやすい色を使って作っている。それぞれ自宅ですべて使っていたタンスや置物や時計など使い慣れたものを持参してもらっている。	○	絨毯、カーテン、布団カバーなどはホームの物を使っているためそれぞれ使い慣れたものを使用するように変えていくことが必要。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に合わせて換気や空調をしている。夏場、冬場とも外気温との差があきすぎないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手摺を設置安全に配慮し、活動することに障害にならないよう必要物品を配置している。掃除道具や調理機器は入居者が自由に使えるように工夫し配置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの居室、トイレ、浴室、洗濯室、階段扉には表札を貼っている。またそれ以外にも居室入口の棚には入居者の馴染みのものを置いたりトイレには大きくトイレと貼紙し、浴室には湯と書いた暖簾を吊るしたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには入居者が触れるように柵を作り鉢植えの花や野菜を植えている。	○	水やりは入居者が行なっているが手入れ等は職員が行なっていることが多いため入居者ができるよう支援が必要。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない 意思疎通の困難な利用者の思いや、意向は掴みきれていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 毎日ゆったりと過ごすように目標に上げ取り組んでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 意思疎通の困難な利用者は職員のペースで暮らしている恐れがある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 常時ではないが職員の対応に笑顔や生き生きした表情が見られる時がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 意思疎通困難な利用者の行きたいところの把握に努めているが笑顔や反応の良い場所を選び外出している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 毎日のバイタルチェックやそれぞれの疾患を把握し様子観察により主治医に報告している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 帰宅願望や急な外出の希望など見守りの中、外に出てもらうなど要望、訴えに応え安心できるように工夫している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない 面会時には日常の様子を報告し家族の希望も聴くように心がけているが面会の殆どない家族の要望は聴けていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 利用者の知り合い、ボランティアや見学者はいつでも受け入れている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の中で役割を持って暮らせるように家事仕事をみんなで行なうようにしている。

外出(行楽、外食、モーニング、グループ外出、個別外出)や行事(夏祭り、新年会、忘年会、バザー、クラブ活動、喫茶の日、レクリエーションの日、誕生会、入居記念日、ビデオ上映会、スライドショー等々)などの活動を計画的に行なっている。

利用者がしたい事をできるようにしているが時としてやりたくない事もやってもらえるような声掛けにも工夫している。